

政治学概論 |

(5) 選挙と政党

代議制民主主義と選挙・政党

■選挙 = 代表を選ぶ行為 代議制民主主義とともに拡大
代表制と説明責任 ⇄ 間接（代議制）民主主義の要件
議会（議員）以外の公職も選挙で選ぶケースが増える

■政党 = 代議員が市民の（多様な）意見を代弁するための装置
政策の実現、特定の利益集団が政党の形成を促すとされる
民主主義の進展とともに「政党政治」が一般的になる

※特定階級による制限選挙 ⇄ 市民すべてが参加する普通選挙

選挙権（参政権）の拡大

・イギリスなどの例

17～19世紀 貴族による議会（上院） 地方領主

19世紀前半 富裕層による選挙（下院） 「資本家」 制限選挙

19世紀後半 労働者層の政治要求、選挙権の拡大

→ (男子) 普通選挙

20世紀 第一次世界大戦 女性労働の拡大 選挙権

第二次世界大戦後 完全な普通選挙が一般化

政党政治の拡大と定着

- イギリスなどの例

17～18世紀 議会内のグループが政党化

19世紀 (保守) 二大政党の定着、議院内閣制へ

20世紀 労働者層の政党 (左派政党) の登場と成長

右派政党 (保守党) と左派政党 (労働党) のパターン

政党の役割 = 支持層の政治要求の代理、政策と政治家の養成

小選挙区選挙 (二大政党) と比例代表選挙 (多党制)

選挙と政党の機能不全

20世紀半ば以降 議会制民主主義の定着と拡大

20世紀後半～投票率の低下（政治的無関心）

政治不信、政党不信 無党派層の増加



議会制民主主義（選挙と政党）の形骸化？

行政機能（執政府）の肥大化・専制的政府

民主政の空洞化・ポピュリズム・権威主義体制の活況